

道の駅「花の駅 千曲川」 管理運営計画



飯山市

1 目的

(1) 計画の目的

道の駅「花の駅 千曲川」は、「桜広場交流施設」として平成 14 年(2002 年)4月 19 日にオープンし、平成 17 年(2005 年)8月 10 日に道の駅として登録されました。長野市と新潟県小千谷市を結ぶ主要道路である国道 117 号線沿いに位置し、戸狩野沢温泉、野沢温泉村、栄村、津南町、十日町市へ向かう南の玄関口として多くの観光客に利用されており、あわせて信越9市町村(中野市、飯山市、妙高市、山ノ内町、信濃町、飯綱町、木島平村、野沢温泉村、栄村)内の観光振興の拠点としての役割を果たしてきました。

平成 16 年、22 年にそれぞれ農産物直売所を拡張、平成 24 年にはレストラン「里わ」をリニューアルオープン、平成 19 年には駐車場を一部拡張するなど、施設の一部改修を行うなどした結果、当初は 20 万人程度であった推定来館者数が平成 26 年には約 90 万人に達しました。また、平成 27 年(2015 年)に北陸新幹線飯山駅が開業し、鉄路においても東京・北陸方面から当市へのアクセスが向上したことも相まって、道の駅「花の駅 千曲川」の推定来客数は約 100 万人に達しています。

一方で、周辺地域では冬期のスノースポーツに加え、グリーンシーズンのサイクリングやトレッキングの需要が増加するとともに、千曲川を活用したパドルスポーツの需要も増加しています。また、令和3年5月には「千曲川北信5市町かわまちづくり推進協議会」が設立され、道の駅「花の駅 千曲川」周辺でも水辺整備事業が推進されることで千曲川でのアウトドアアクティビティ需要のより一層の増加が見込まれます。

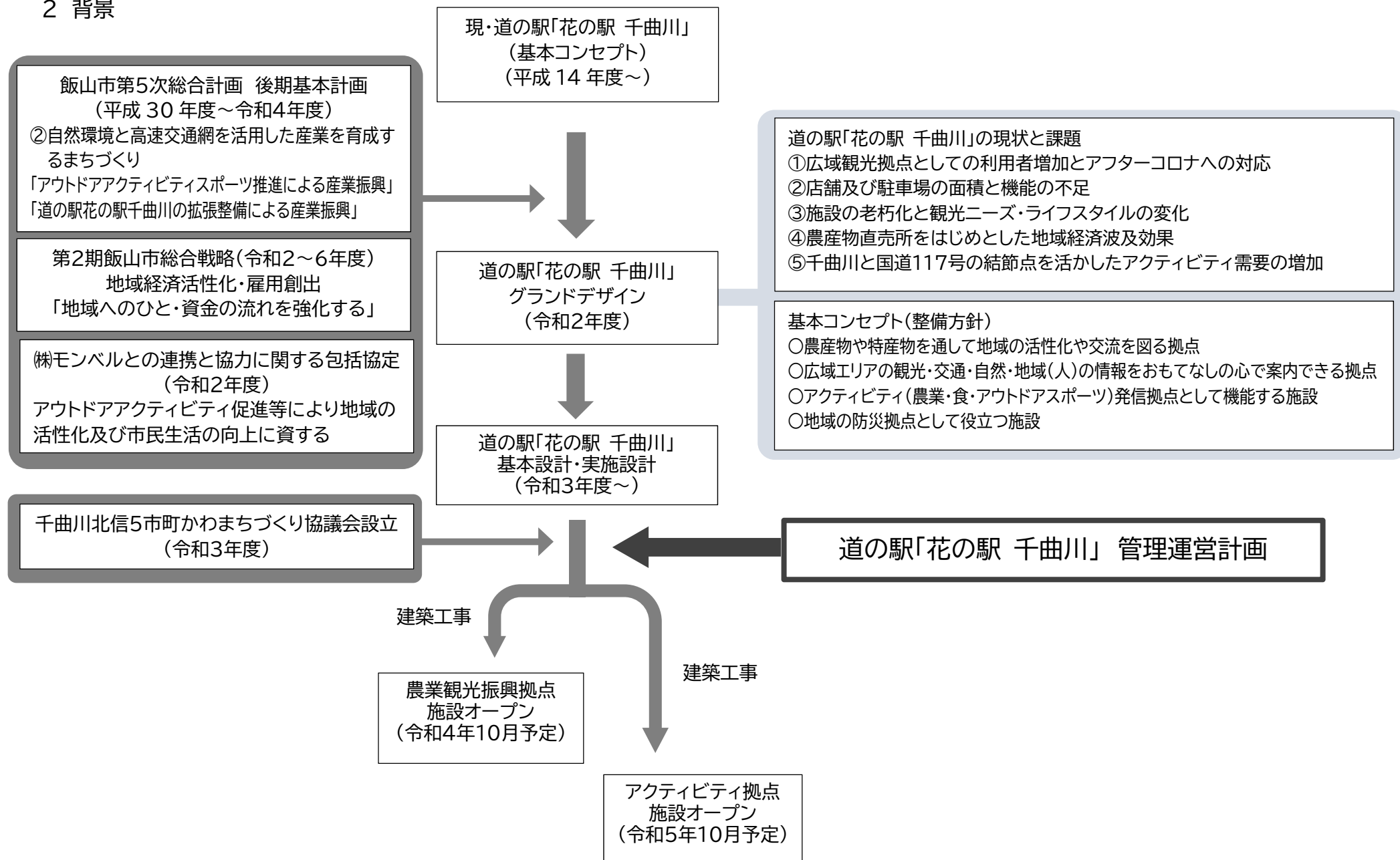
市では第5次総合計画の後期基本計画(平成 30 年度～令和4年度)の重点目標に「自然環境と高速交通網を活用した産業を育成するまちづくり」を定め、この中の重点目標として「道の駅花の駅千曲川の拡張整備による産業振興」と「アウトドアアクティビティスポーツ推進による産業振興」を掲げ、来客数の増加による道の駅の施設面積の不足解消と、農業と観光を融合した新しい道の駅の方向性について検討を進めてまいりました。

本計画は、これらの経緯や検討を踏まえた施設全体の管理運営方法等を定めるものです。

(2) 道の駅「花の駅 千曲川」を中心とした各アウトドアアクティビティへの動線イメージ



2 背景



3 管理運営体系

道の駅「花の駅 千曲川」ではこれまでの指定管理方式を継続し、一般社団法人信州いいやま観光局へ指定管理を行うことで継続的な経営の安定性を図るとともに、新しく整備する予定のアクティビティ拠点についても一体的に管理を行い、新たな顧客の開拓を目指します。

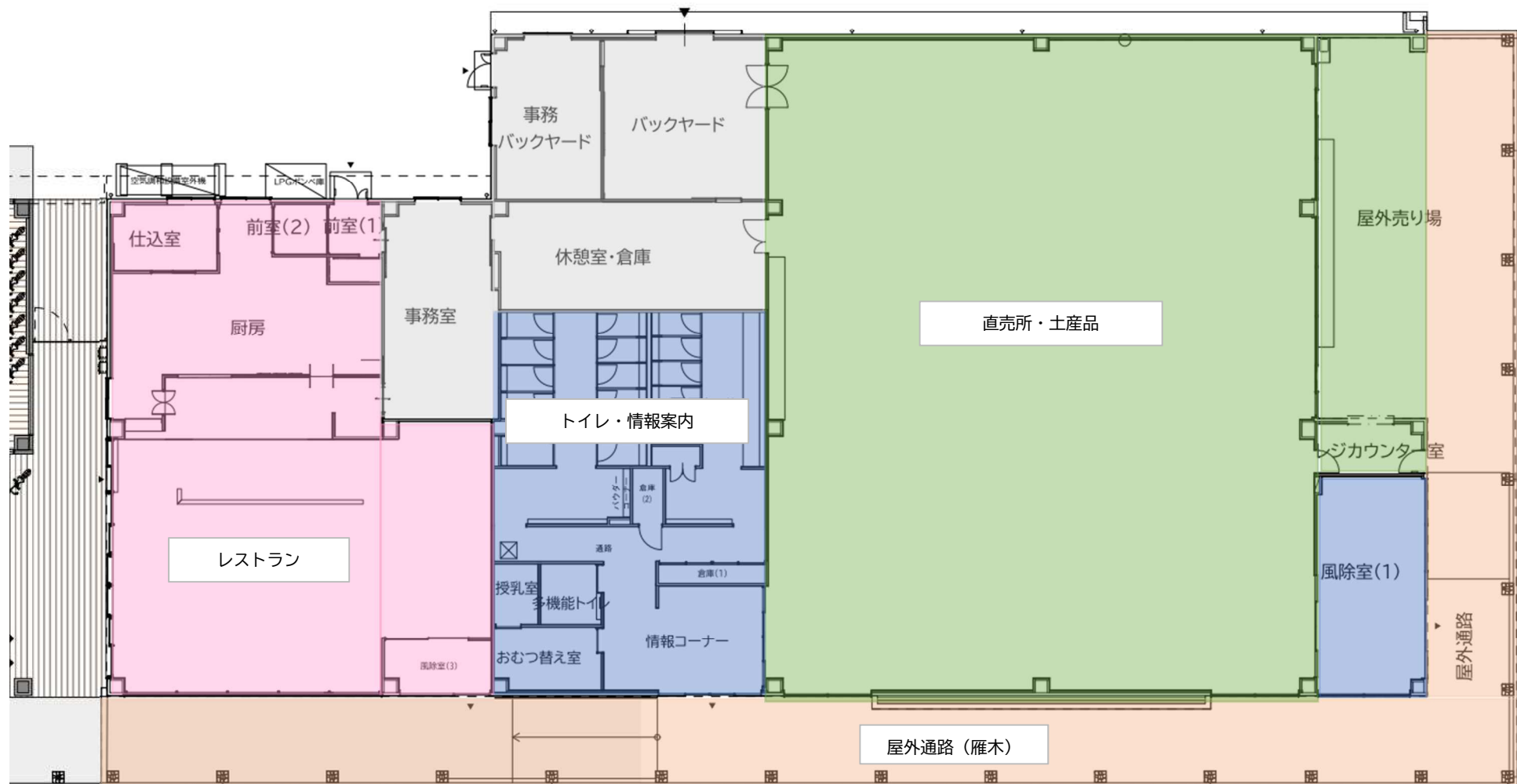
また、運営協議会を設置し、市及び関連事業者の代表により定期的に協議を行いながら来場者が利用しやすい施設運営を行います。



4 施設別管理運営方式

I 農業観光振興拠点施設の運営

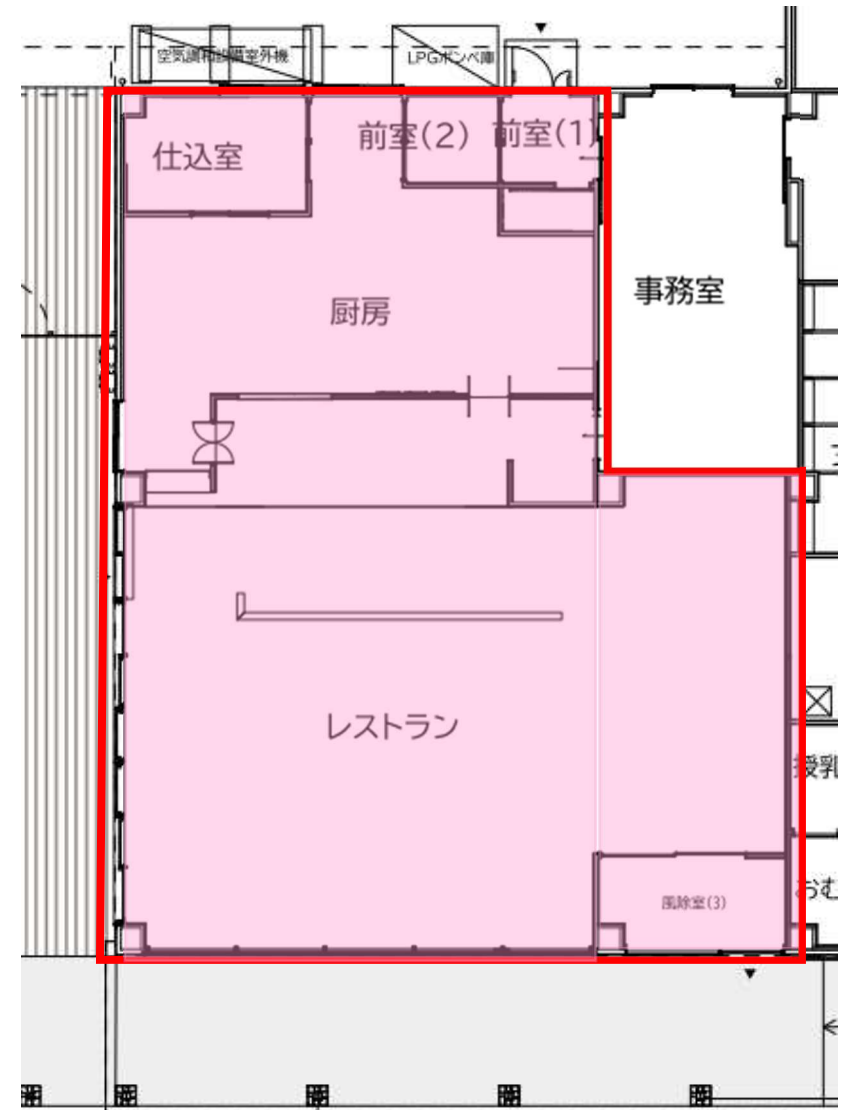
(1) 農業観光振興拠点施設平面図



農業観光振興拠点施設 平面図

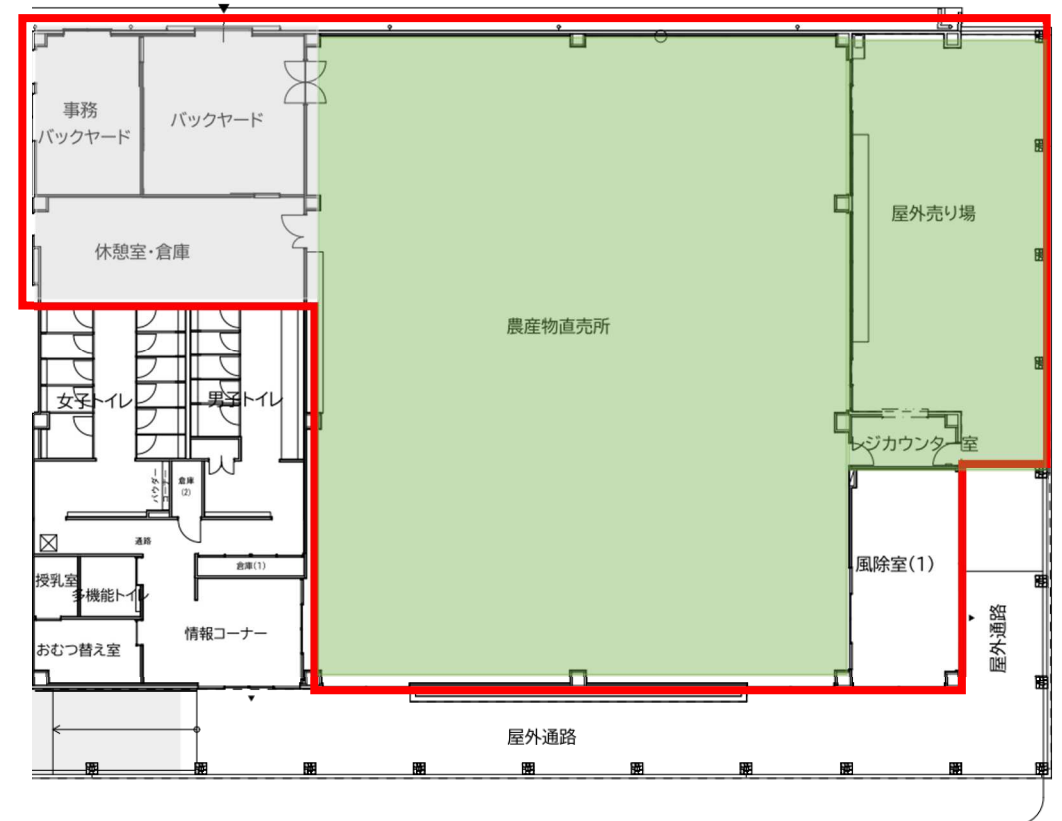
(2) レストランの運営

- ①信州いいやま観光局が現在の営業スタイルを継続し運営する。
- ②飯山産の食材を活かしたメニューを提供する。
- ③モーニング、ランチ、カフェタイムなど、幅広い時間帯での営業を行う。
- ④市内スイーツ店の商品を販売する。
- ⑤地域材を活用した家具を使用し、店舗からの眺望を活かすレイアウトとする。
- ⑥通路など広くスペースを設け、感染症対策にも配慮する。



(3) 農産物直売所、土産品売場の運営

- ① 農産物の納入は農産物直売所「千曲川」の会を中心とした納入を行う。
- ② JAながのは売場全体を運営し、農産物直売所「千曲川」の会と連携を図り新鮮で豊富な野菜の提供に努める。
- ③ 土産品は信州いいやま観光局が地域産を中心とした商品の納入を行い、施設全体と売場の調和を図る。
- ④ 農産物と土産品のレジー一元化による購入者の利便性の向上を図る。
- ⑤ 農産物等のインターネット等を活用した販売を信州いいやま観光局とJAながのがともに進め、地域特産物が多くの利用者に届くことを目指す。
- ⑥ 運営協議会において効果的な売り場の陳列や販売データを活用した安全でニーズの高い生産物の栽培など、生産者等と一体となった運営を行う。



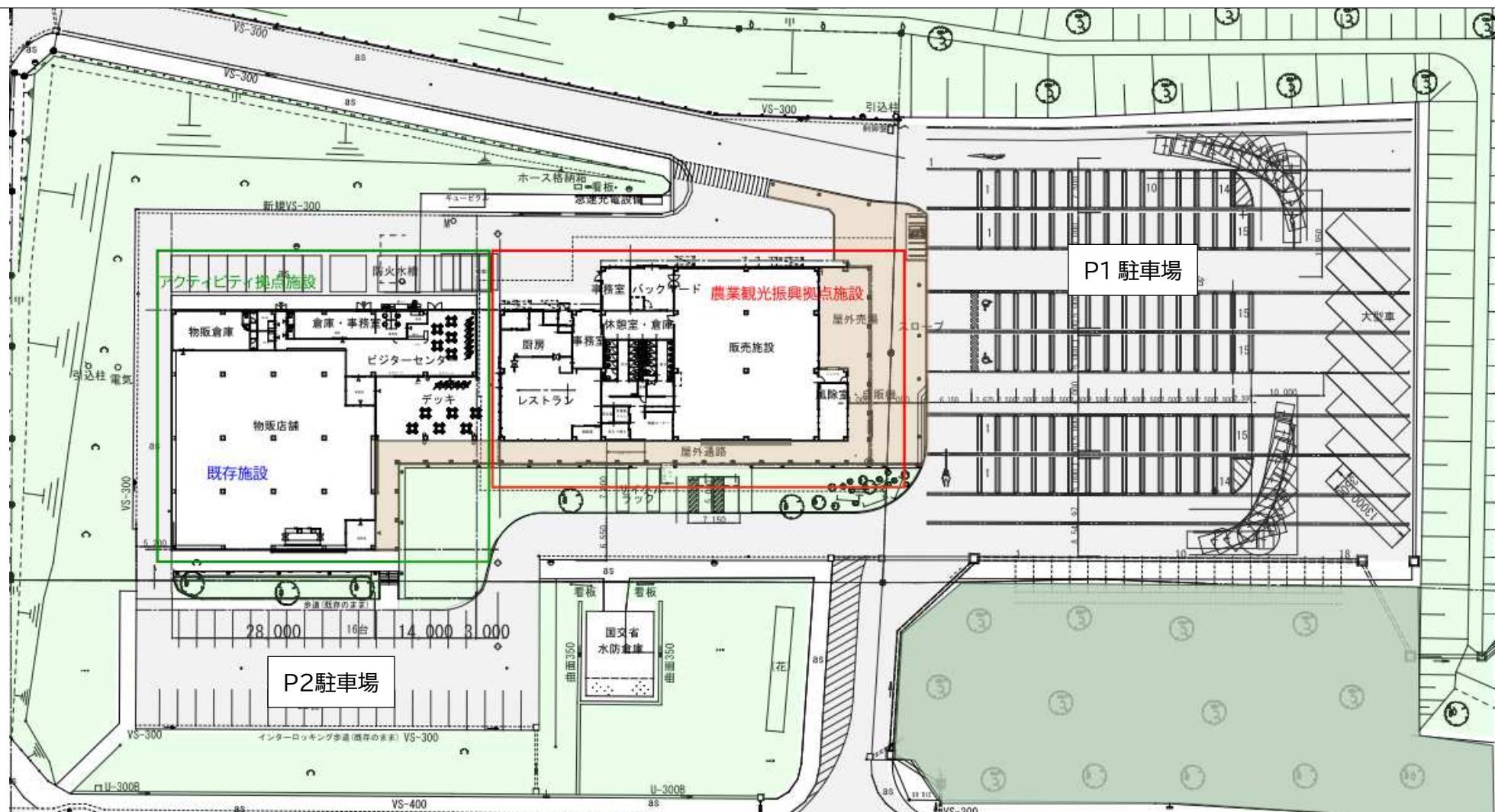
(4)共有スペース(情報コーナー、トイレ、雁木等の管理)

- ①情報コーナー及びトイレについては 24 時間利用可能とする。
- ②情報コーナーでは広域マップを掲示するとともに、当市や信越自然郷エリアの観光情報及びパンフレットを提供する。
- ③モニターには河川のライブ映像や観光案内を中心とした情報を提供する。
- ④さまざまな利用者に配慮した多機能トイレ、ベビーコーナー(おむつ替えスペース・授乳スペース)を設置する。
- ⑤施設案内(サイン)については誰でもわかりやすい案内・誘導を行う。
- ⑥雁木では荒天時でも多くの利用者が通行できるよう幅員を確保しつつ、植栽を行うなど花の駅らしいしつらえを施す。
- ⑦共有スペースについては指定管理者による清掃業務により常時清潔に保つ。
- ⑧自動販売機については必要最小限度の設置とし建物の景観を損なわないものとするとともに、特産物の販売など新形態の販売機の設置を目指す。



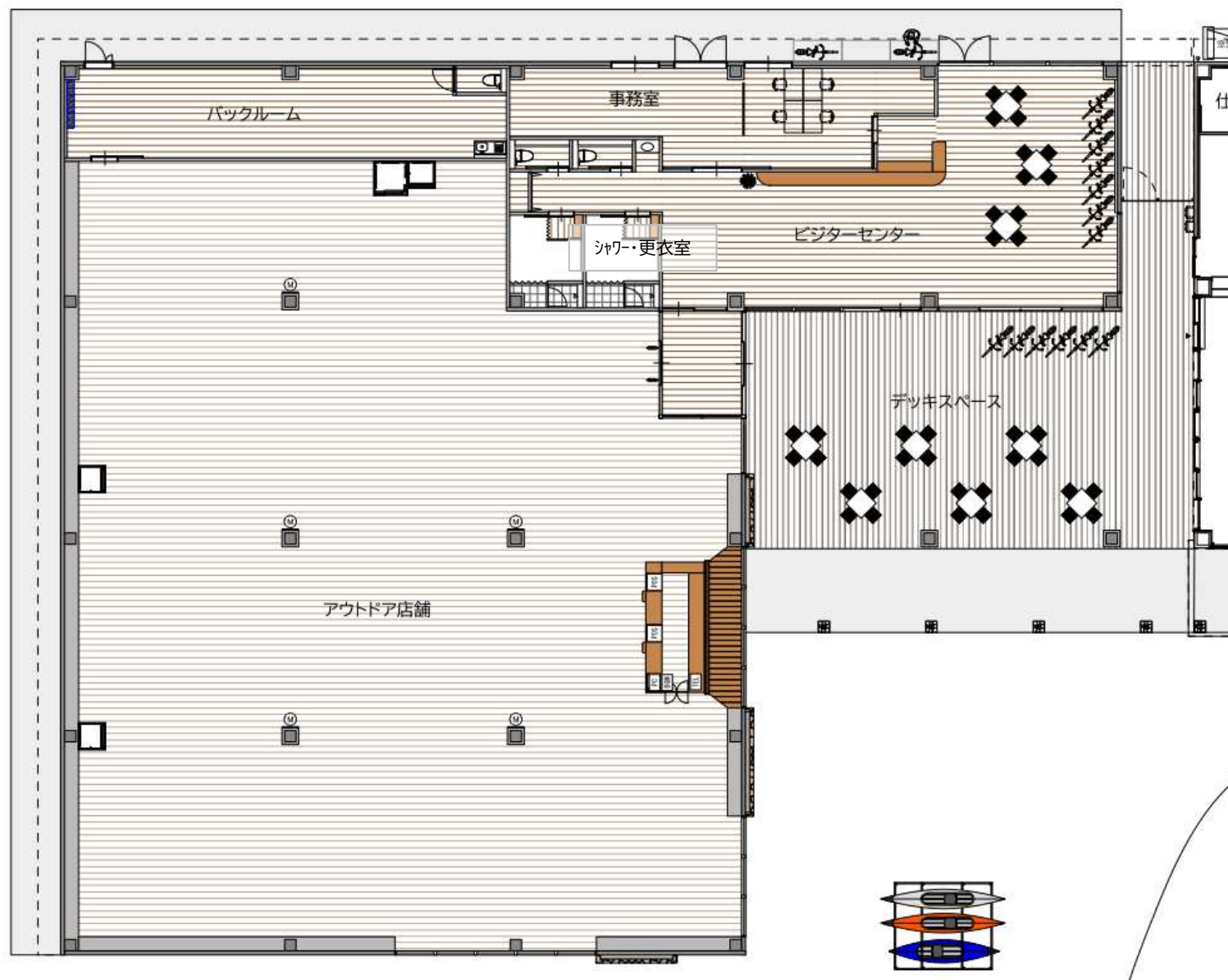
(5) 駐車場、電気自動車充電設備及び緑地等の管理

- ①P1 駐車場は消雪施設設置駐車場とし、冬期間の駐車も可能とするとともに国道117号通行車の豪雪時一時退避が可能となるよう配慮する。
- ②P2 駐車場は冬期閉鎖とし、冬期間は来場者が雪に親しむことができる催しを行う。
- ③混雑時にはそれぞれの駐車場へ効率的に誘導できるよう、AI 等を活用した満空車システムを導入する。
- ④電気自動車充電設備は指定管理者による定期確認を行うとともに、充電事業者との連携を図り安定的な施設管理を行う。
- ⑤敷地内の緑地スペースは可能な限り植栽を施すとともに、指定管理者による清掃や除草業務を行う。



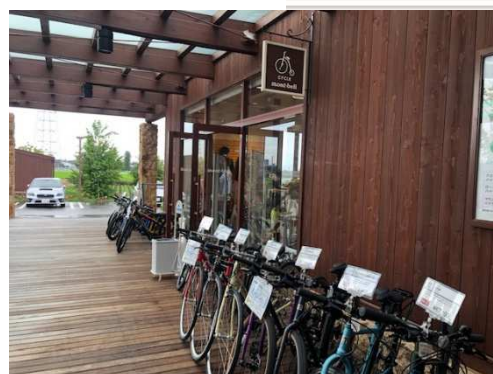
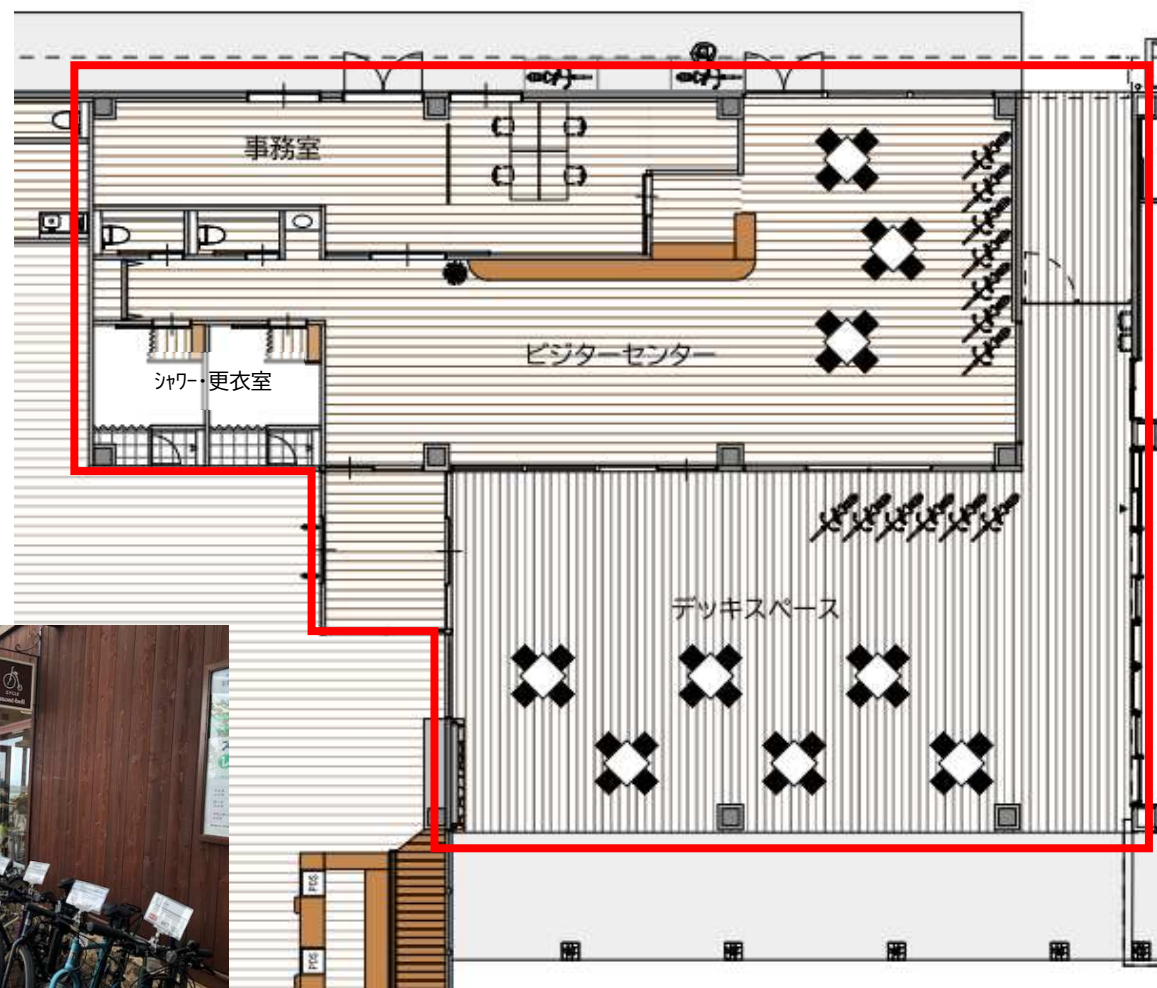
Ⅱ アクティビティ拠点施設の運営

(1) アクティビティ拠点施設平面図



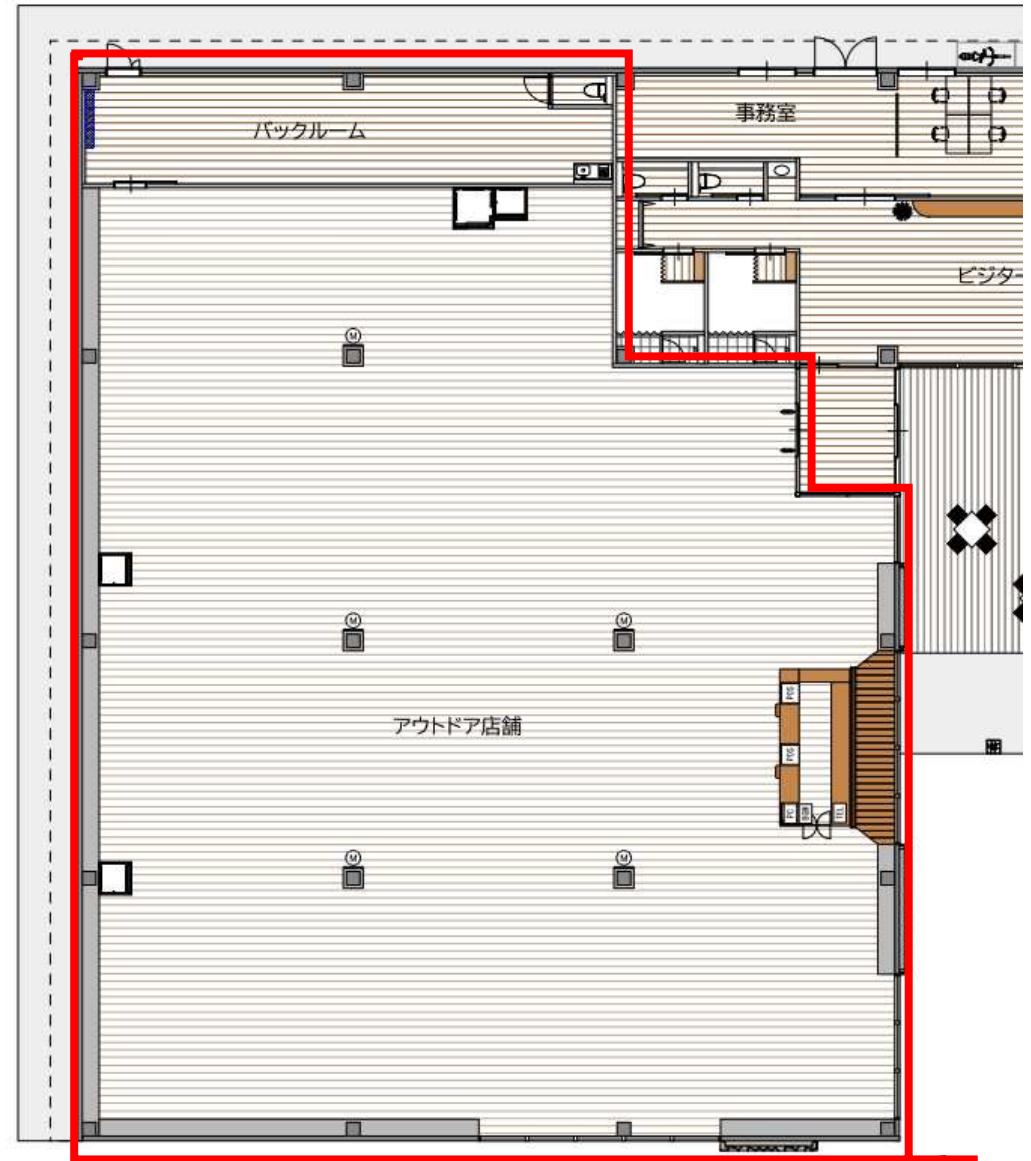
(2) ビジターセンター、デッキスペースの運営

- ① ビジターセンターは信州いいやま観光局が管理運営を行い、農業観光振興拠点施設における観光情報案内に加えた観光案内を行う。
- ② 飯山駅アクティビティセンターの運営ノウハウを活用し、Eバイクなど当施設を中心としたアクティビティ体験に必要なレンタル業務を行う。
- ③ 施設内にはシャワーや更衣室を設け、各種体験後の着替えなどを可能にする。
- ④ デッキスペースは眺望を活かした休憩スペースを提供し、開放的な空間で食事やミーティング・イベントなどができる環境を整える。



(3)アウトドア店舗の運営

- ①アウトドア店舗は国内大手アウトドア総合ブランドのメンバーが運営し、アウトドア商品全般を販売する。
- ②農林業ウェアの販売など、ビジターセンターと連携して道の駅を中心とした農業体験も可能な体制を目指す。
- ③メンバーのノウハウを活用した各種講習会やアウトドア関連の著名人を招いた講演会など、ビジターセンターと連携したイベントを施設内で行う。



6 事業スケジュール

○整備計画（案）

年 度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
【道の駅拡張整備事業】						
農業観光振興拠点施設 建築	設 計	工 事		10月開業予定		
アクティビティ拠点施設 建築		設 計			工 事	10月開業予定
【桜広場交流施設拡張整備事業】						
駐車場整備						

7 施設のKPI（アクティビティ拠点施設【地方創生拠点整備交付金関係】）

重要業績評価指標(KPI)は下表のとおりとする。

なお、別紙(KPI実績集計表)により実績値の集計を行う。

事業名	KPI	KPI 名称	当初値	単位	目標値						累計
						2022 1 年目	2023 2 年目	2024 3 年目	2025 4 年目	2026 5 年目	
道の駅を核としたア	①	飯山市年間観光地利用者数	513,200	人	増加分	0	10,000	10,000	10,000	10,000	40,000
ウトドアアクティビテ	②	本事業で整備したアクティビティ拠点の年間来場者数	0	人	増加分	0	20,300	300	300	300	21,200
ィ拠点施設整備事業	③	本事業で整備したアクティビティ拠点を起終点又は中継点とする体験メニューの造成数	0	件	増加分	0	5	5	5	5	20

(別紙)KPI実績集計表

事業名	KPI	KPI 名称	当初値	単位	目標値						累計
					実績値(見込)						
						2022 1 年目	2023 2 年目	2024 3 年目	2025 4 年目	2026 5 年目	
道の駅を核としたアウトドアアクティビティ拠点施設整備事業	①	飯山市年間観光地利用者数	513,200	人	増加分	0	10,000	10,000	10,000	10,000	40,000
	②	本事業で整備したアクティビティ拠点の年間来場者数	0	人	増加分	0	20,300	300	300	300	21, 200
	③	本事業で整備したアクティビティ拠点を起終点又は中継点とする体験メニューの造成数	0	件	取組数	0	5	10	15	20	50
					増加分	0	5	5	5	5	20